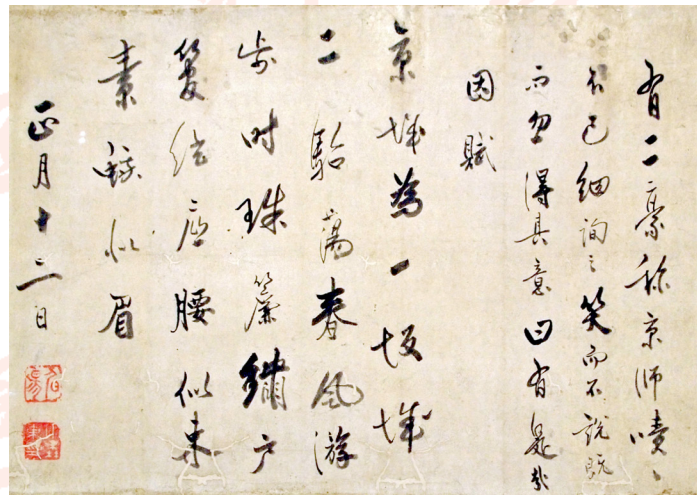


安陵太守東郭李先字名璜字重叔正德辛卯信
時時製述官也為人忠厚博學善詞章余結為紳
編之文位還海陸數千里間半載有餘朝夕相和
乳相投竟為異邦之莫逆發至今奉使彼國爾草
梁館中自詩一首末寄餘藏于家久矣令人慕
木已拱余亦年登七秩閱世而視之平筆宛然如見
面目存彼之風痛切肺腑乃命督治裝潢為軸蓋欲
傳之子孫使知東郭與余相厚之至如此云爾
元文丁巳二月十八日
芳河雨森東書

李東郭七律 附雨森芳洲識語



七絶「京城為一坂城二」云々

令和8年(2026)

6月24日(水) - 8月3日(月)

会場: 高月観音の里歴史民俗資料館 2階展示室
開館時間: 午前9時~午後5時(ただし、入館は午後4時30分まで)
休館日: 火曜日、祝日の翌日
入館料: 大人350円(団体300円) / 小中学生150円(団体130円)
主催: 長浜市 協力: 芳洲会

※団体は20名以上。長浜市・米原市の小・中学生は無料。
※身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳等をお持ちの方及び
その付添いの方1名は無料。(ただし、証明となる手帳等の提示が必要)

企画展

知を愛し、生涯を「学び」に捧げた国際人

詩文と和歌

Amenomori Hoshu: His Literary Arts and Verses

雨森芳洲の



雨森芳洲肖像

高月観音の里歴史民俗資料館

〒529-0233 滋賀県長浜市高月町渡岸寺 229 TEL 0749-85-2273

<https://www.city.nagahama.lg.jp/section/takatsukirekimin/>



ホームページ
QRコード

企画展

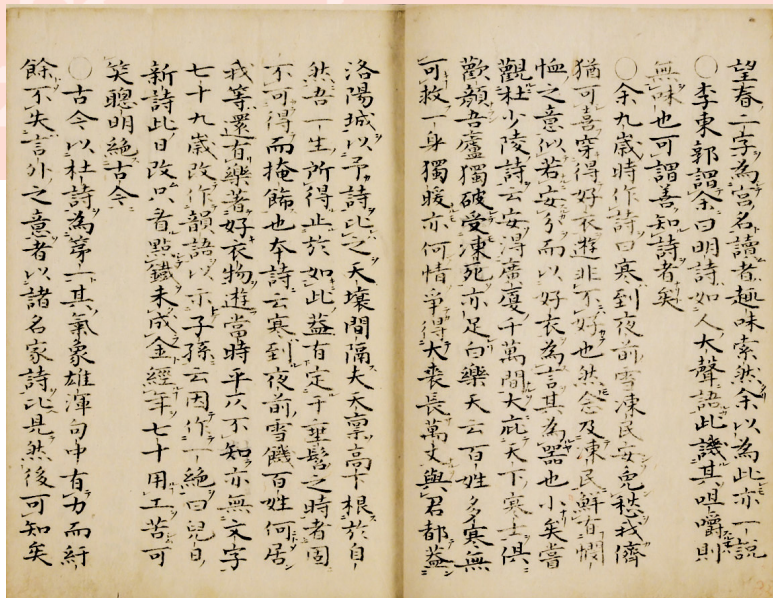
雨森芳洲の詩文と和歌

江戸時代中期、対馬藩に仕えた長浜市出身の儒学者・雨森芳洲（1668～1755）は、日本と朝鮮との親善外交に深く尽力した屈指の国際人です。日本・朝鮮・中国の3か国語を自在に操り、「異なる文化に優劣はない」という、現代にも通じる先進的な国際感覚を備えていました。互いの文化を尊重し、まごころをもって交わる「誠信の交わり」を説いた彼の関係資料は、「朝鮮通信使に関する記録」として、2017年にユネスコ「世界の記憶」に登録されています。

芳洲の知性の根底にあったのは、飽くことのない向学心です。幼少から漢詩に親しみ、日本や朝鮮の文人

たちと高度な交流を重ねた彼は、晩年 81 歳にして日本の伝統文化である「和歌」の世界に挑みました。『古今和歌集』を千遍読み込み、2万首を詠み上げるという驚異的な研鑽は、生涯を通じて自己を更新し続けた「学びの先駆者」としての姿を物語っています。

本展では、雨森芳洲関係資料（重要文化財・芳洲会所有）の中から、国際性を象徴する「詩文」や、晩年の情熱が結晶した「和歌」に焦点を当てます。世界を等しく見つめるフラットな視点と、衰えることのない探究心を持ち続けた芳洲の真の姿に迫ります。



橘窓茶話 下巻

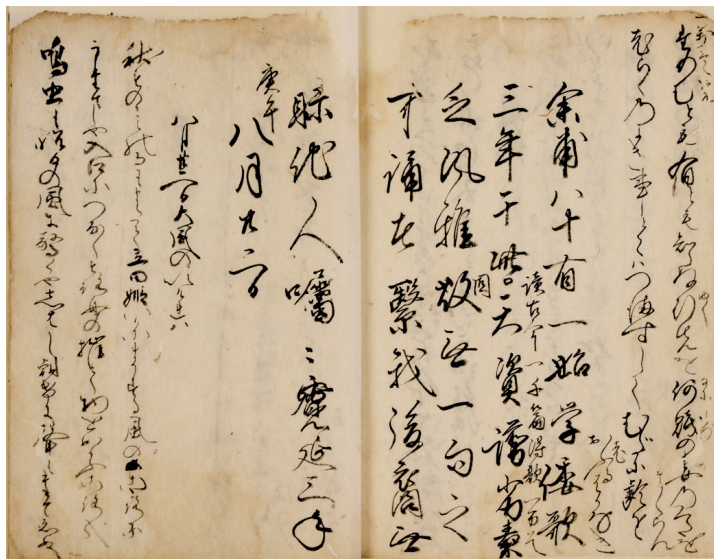


木下順庵肖像 付自賛



高月観音の里歴史民俗資料館

〒529-0233 滋賀県長浜市高月町渡岸寺 229 TEL 0749-85-2273
<https://www.city.nagahama.lg.jp/section/takatsukirekimin/>



芳洲詠草

展示説明会

日時：令和8年 7月11日(土) 午後1時30分から 会場：高月観音の里歴史民俗資料館 2階展示室